

令和5年度岐阜県職業能力開発審議会 会議録

日時	令和5年10月18日(水) 9:20~10:15
場所	障がい者総合就労支援センター 大会議室
出席委員	<委員> 7名 竹内治彦委員、荒川晶一委員、三井栄委員、大宮満委員、栗本理花委員、別宮理恵委員、田中栄彦委員
事務局	商工労働部 次長 兼松 伸和 労働雇用課 課長 桑原 秀幸 労働雇用課 課長補佐兼係長 立川 博司 国際たくみアカデミー 校長 森 保 木工芸術スクール 校長 宮前 良一 障がい者職業能力開発校 校長 岩田 太

1. 開会

2. 挨拶

商工労働部次長 兼松 伸和

3. 審議会の成立

委員総数(9名)の過半数を超える7名が出席し、岐阜県職業能力開発審議会条例第5条第2項の規定に基づき審議会の会議が成立したことを確認した。

4. 会議録署名者の氏名

竹内会長が大宮委員と田中委員を指名した。

5. 議事

「職業能力開発分野の関連施策の取組状況」について、事務局より説明を行った。

6. 閉会

【議事要旨】

発 言 者	発 言
委員	<p>この審議会の主要なタスクとして、県内に3つある職業能力開発施設の入校状況等の状況を把握することも必要だと考える。数年前、たくみアカデミーと木工芸術スクールの入校生数が芳しくない状況を何とかしようということで、大々的に審議会を開催した記憶がある。その頃と比較すると、どの科も悪くない数字で推移している印象である。</p> <p>県内にある厚生労働省所管の大学校も入校生の募集には苦勞していると聞いている中で、これだけの数字が維持されているのは、県立高等学校との連携がうまく取れていることが要因の一つとしてあげられるのではないかと。</p> <p>この辺りについて、各校から改めて説明してほしい。</p>
事務局	<p>国際たくみアカデミー短大校の建築科は、近年の建築ブームの影響で順調であったが、昨年度からこのブームが少し下火になったものと思われる。生産技術科は、定員の約半数は留学生となっている。コロナによる入国制限の影響で、留学生が減少したことが定員割れの主な要因と考えている。</p> <p>開発校の住宅建築科は、短大校の建築科と同様に昨年度から入校生が減少傾向にある。</p> <p>設備システム科は、定員を充足している。設備工事業界の人手不足は非常に深刻であり、修了後の就職率の高さが人気の要因と思われる。</p> <p>自動車エンジニア科は、ここ数年人気が高かったが、今年度入校生が減少した。エンジンがなくなるというような報道の影響が少なくないと考えている。</p> <p>木工芸術スクールは、県外からの入校生が約7割を占めている。女性の割合も増えており昨年度、今年度ともに入校生の約3割程度が女性である。若者向けに Youtube 等の SNS を活用しているため今後も新しい視点での広報を継続したい。</p> <p>障がい者職業能力開発校では、令和2年度の開校以来、おおむね定員を充足している。ただし、応募者数は年々減少傾向にあるため SNS での情報発信、入校案内の早期配付等、広報に力を入れていきたい。</p>

委員	障がい者校の入試の選抜基準について、学力以外に重視しているものはあるか。
事務局	学力以外に、一年間の訓練に継続して出席できること、一般就労を目指せることの2点を特に重視している。